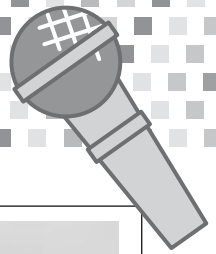


新規採用教員へのインタビュー



竹内 梨子 たけうち りこ

備前市立片上高等学校教諭
(令和2年度採用)

自己紹介

昨年4月に高等学校教諭として採用され、今年度は2年生の担任と、全学年で体育の授業を担当しています。小規模校ならではの和気藹々とした雰囲気の中、楽しい毎日を送っています。「超」がつくほどポジティブな性格で、周囲の人にもよく驚かれます。勤務時間の都合で平日の午前中を有意義に使えるので、ヨガや筋力トレーニングをして、心身の安定を保つことを大切にしています。

Q 教員を目指したきっかけを教えてください。

私は5歳でダンスを始め、高校時代にはアメリカで開催された国際大会にも出場することができました。そのとき厳しくも温かく指導してくださった先生に憧れたことが、教員を目指したきっかけです。

また、中学校時代には卓球部で部長を務めていたのですが、そのころから人に何かを教えることが他の人のために何かをすることが好きでした。

教員として、ダンス自体の楽しさだけでなく、何かを通して自分を表現することの楽しさや素晴らしいコミュニケーションの大切さも伝えていきたいと思っています。

Q 現任教に赴任してどうでしたか？

講師経験はあったものの、夜間定時制での勤務は初めてで、正直少し不安もありました。しかし、各クラスが少人数で、一人一人の生徒が抱えている課題を知り、それに寄り添って丁寧にかかわることができる経験は、とても大きな財産になりました。確認し、すぐに不安はなくなりました。何よりも、講師時代からずっとクラス担任を持つことが夢だったので、それが実現したことはとても大きな喜びでした。

Q 現在、仕事の中でどんなことに気をつけていますか？

現任教における教員の生徒に対する接し方にとっても感銘を受け、実践しています。

本校では、生徒が登校すると教員全員で出迎え、「おはよう」の声をかけます。そして、あいさつ、検温に加えて必ずプラス一言、一人一人の生徒に応じた声かけをしています。これを日々繰り返すことで、生徒に「私たちはあなたの味方だよ。いつも気にかけているよ」というメッセージを送り続けているのです。

Q 授業等で工夫していることはありますか？

職員室でも、教員全員が生徒全員を担任しているような雰囲気があり、何事に対しても知恵を出し合い、自由に語り合う場面が多くあります。担任としてクラスの生徒のことで悩んだときも、遠慮せずに相談でき、多くのことを学ばせていただいています。

Q 授業等で工夫していることはありますか？

常に生徒の目線で、日々の授業を振り返るようにしています。そう思えたきっかけは、生徒の「授業が面白くない」という言葉でした。

かつての私は、「自分の考える」いい授業をするため、例えば生徒がゲームをより楽しむためには基礎基本の練習が大切だと、そればかりを繰り返して行っていました。自分の考えるプロセスを絶対だと考え、目の前の生徒の実態を全く踏まえられていませんでした。生徒の一言をきっかけに、楽しみながら基礎基本が習得できるミニゲームを考えるなどの工夫ができるようになりました。

また、私はダンスが専門ですが、それ以外の種目には苦手なものも多くあり、苦手だからこそ生徒の気持ち分かる部分もあります。生徒の前でも、苦手な種目を克服するために懸命に頑張る姿を見せ

ることで、生徒にもいい影響を与えることができたかと考えています。

Q 目指す教員像・理想の教員像を教えてください。

生徒、保護者、同僚の誰からも信頼される教員です。前任校の校長先生からいただいた言葉に「優しさだけでなく、愛情に裏打ちされた厳しさを持ちなさい」というものがあります。生徒にすぐには伝わらなくても、いつか必ず伝わると信じて、日々謙虚に、誠実に生徒に向き合っていきたいと思っています。

また、自分の言動が生徒の成長のきっかけにも妨げにもなるという緊張感や危機感、そして相手の本質を見抜く直観力を持った教員になりたいと思っています。

Q 休みの日は、どんなことをして過ごしていますか？

自分の感性を磨き続けるために「ホンモノ」に触れることが大切だと考えていて、舞台や演劇鑑賞をするのが好きです。また、カラオケも好きで、今は長距離通勤の車の中がカラオケボックスと化しています(笑)。最近では遠くまでドライブに出かけ、滝を見ながら体いっぱいマイナスイオンを浴びて癒やされましたね(笑)。